

2017.4.19 発行

発行：札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課
(※このお知らせは、学校やまちづくりセンターでも配布しています。)

芸術の森地区における新設小学校開校に向けた 説明会開催結果のお知らせ

芸術の森地区では、常盤小学校と石山東小学校の学校規模適正化を図るため、平成 25 年以降、地域の皆様や保護者の皆様と様々な検討を行ってまいりました。

そうした検討を経て、芸術の森地区で新しい小学校を設置することが決定し、その開校時期等が定まったことから、以下のとおり説明会を開催しましたので、概要をお知らせいたします。

なお、説明会やこのお知らせに関するご意見・ご質問は、最終ページの【お問合せ先】までお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

説明会の日時等

平成 29 年 3 月 25 日（土曜日）

（1 回目）石山東小学校（体育館） 午前 11 時 ～ 12 時

（2 回目）常盤小学校（体育館） 午後 3 時 ～ 4 時

～ 説明概要 ～

1 これまでの学校規模適正化の検討経過

教育委員会では、平成 25 年 3 月に策定した「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する地域選定プラン [第 2 次]」で、学校の小規模化が進んでいる石山・芸術の森地域の 4 小学校（石山小・常盤小・石山南小・石山東小）を学校規模適正化の対象校に選定しました。

その後、地域での説明会や、関係団体との協議等を経て、平成 26 年 7 月に保護者や地域の方々等で構成する「石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会」を設置し、4 小学校の学校規模適正化についての検討を行いました。

平成 26 年度末には統合する学校の組合せが概ね定まったため、平成 27 年度からは石山小と石山南小を検討対象とする「石山部会」と、常盤小と石山東小を検討対象とする「芸術の森部会」に分かれ、より具体的な検討を行っています。

平成 26 年度

「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」 全 4 回

1 年間にわたって統合する学校の組合せについて検討を行い、最終的に連合会や進学する中学校等をもとに決定。

次回以降、統合のペアごとに、石山部会（石山小、石山南小）と芸術の森部会（常盤小、石山東小）に分かれて検討を実施することを決定。

「芸術の森部会」

第1・2回 新設校設置場所について検討

芸術の森地区の地形や、子どもたちの通学への負担感等を考慮し、両校の概ね中間にある「ときわスポーツコミュニティ広場」に新たに小学校を設置する旨を決定。

第3回 新設校の小中一貫校化について検討

新設校が常盤中に隣接することから、以前より委員から提案のあった小中一貫校について検討。「ときわスポーツコミュニティ広場」に小中学校両方の施設を建設できるほどの広さはないこと、グラウンドと校舎をそれぞれの土地にまとめた場合は、体育の授業のたびに道路を横断しての移動となり、時間や安全面が厳しいことなどを理由に、小学校と中学校で校舎を別に設置する「施設分離型」の小中一貫校を要望していく旨を決定。

第4回 意見書案について検討

教育長宛に提出する意見書について検討し、平成 28 年 2 月に提出。内容は以下のとおり。

<意見書概要>

- 常盤小と石山東小を再編し、新設校については通学距離等を踏まえ、両校の概ね中間である「ときわスポーツコミュニティ広場」に設置すること
- 両校の特色ある教育や歴史に配慮しつつも、新設校では「未来志向」の新しい学校づくりを進めること
- 新設校の校名については今後検討を行い、別途意見書を提出する
- 通学安全の取組を地域・学校・保護者で充実させ、児童が安全に通学できるようにする
- 新設校と隣接する常盤中学校との連携を強化すること
- 札幌市で小中一貫教育を導入する際は、新設校の「小中一貫校化」「小中一貫のモデル研究校」について前向きに検討すること
- 常盤小と石山東小の跡活用については、地域の意見を十分に聞きながら、地域活性化に資する活用方法を検討すること

第5回 「ときわスポーツコミュニティ広場」の測量について報告

第6・7・8回 新設校の施設複合化について検討

新設校に児童会館やまちづくりセンター等を複合化するかを検討。児童会館は子どもの安全や利便性の観点から複合化を決定。まちづくりセンター等については広場の立地等を理由に複合化しないことを決定。

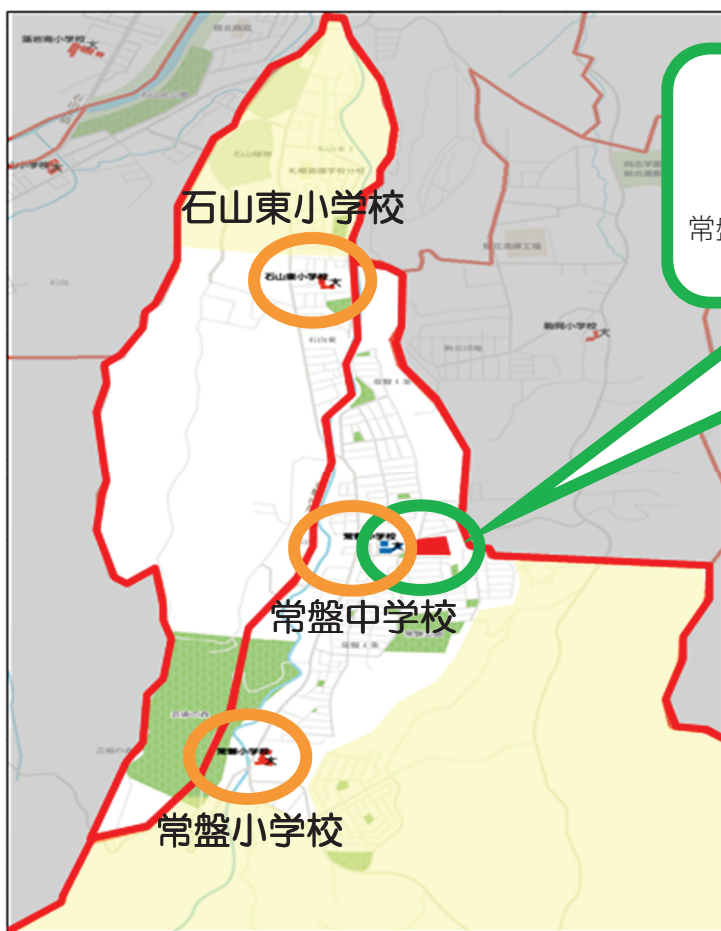
<小学校への施設複合化とは？>

札幌市では、多世代交流の場を創出することなどを目的に、小学校建て替え時等に児童会館やまちづくりセンターなど、地域の様々な機能を複合化する方針を掲げています。

建て替え時に必ず複合化する、ということではなく、地域の実情に応じて検討することとしています。

※ 今後も芸術の森部会にて様々な検討を行っていただく予定です。

(参考) 現在の常盤小学校・石山東小学校校区および新設小学校位置



芸術の森地区新設小学校予定地

(ときわスポーツコミュニティ広場)

常盤中学校付近の野球場やサッカー場のある土地です。

新設校の設置により、下記区域(地図上の黄色箇所)がバス通学となる想定です。

○石山東小学校区

石山東1丁目～4丁目

○常盤小学校区

サンブライト真駒内

真駒内二団 真駒内三団

滝野 常盤二区

2 札幌市の小中一貫教育の検討状況

芸術の森部会から、新設小学校と常盤中学校の「小中一貫校化」や「小中一貫教育のモデル研究校」への前向きな検討を求められているところです。

札幌市では現在、小学校と中学校が一つの施設になっている東区の福移小学校と福移中学校をモデル校に選定し、小中一貫教育の研究を行っています。平成29年度からは、札幌市における小中一貫教育の考え方や具体的内容について検討を行います。平成30年度には小学校と中学校で校舎が離れている学校を「施設分離型」のモデル校に選定し、研究を行う予定となっています。札幌市での小中一貫教育の検討状況については随時、部会委員の皆様をはじめ、ニュース等で地域の皆様にお知らせいたします。

<小中一貫教育とは?>

公立の小中一貫教育は、「エリート教育」を目指すものではありません。義務教育期間の9年間で育てる子ども像を小中学校間で共有し、体系的な教育を行うものです。施設の形態としては、小学校と中学校で校舎が一体となっている「施設一体型」、校舎が離れている「施設分離型」などがあります。全国的には「施設分離型」を採用している地域が多く見られます。

また、小学校1校と中学校1校で行う方法や複数の小中学校(2小1中など)で行う方法もあります。

各自治体では、教員間の連携強化や、中学校の教員が小学校で授業を行うような「乗り入れ授業」など工夫した取組が行われています。

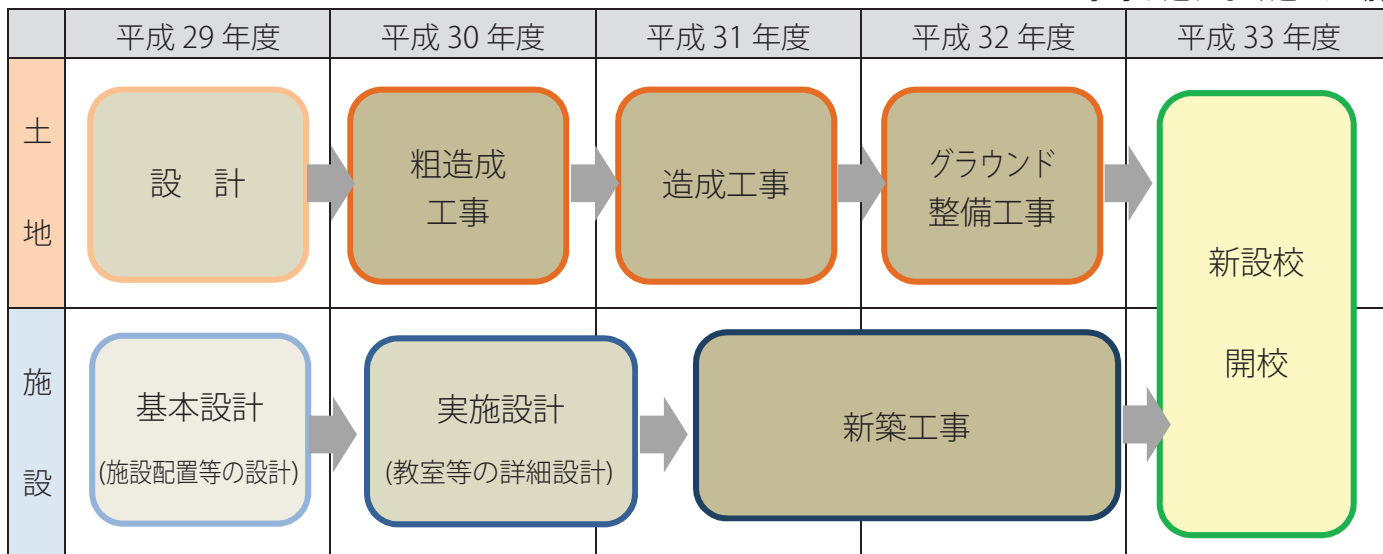
※ 小中一貫教育に関するさまざまな質問が寄せられました。詳細は5ページをご覧ください。

3 開校までのスケジュール

新設校開校に向けて、下表のとおり設計や工事を予定しており、「平成 33 年 4 月」の開校を目指していきます。

また、平成 29 年度末には「施設に関する説明会」の開催を予定しており、その際はニュース等でお知らせいたします。

※ 工事等が遅れなく進んだ場合



※ 新設校の校名、両小学校の跡活用や両小学校の交流事業等、今後も検討すべき議題は多数あり、部会での検討は平成 29 年度以降も継続していきたいと考えております。

※ 工事スケジュールや札幌市での小中一貫教育の検討状況などにつきましても、随時ニュース等でお知らせしてまいります。

～ ご意見・質疑応答 ～

学校規模適正化の取組に関するもの

- 現在、両小学校の学校規模はどうなっているのか。

(回答)

平成 28 年度は、常盤小学校が 327 名、12 学級（特別支援学級を除く）で、石山東小学校が 109 名、6 学級となっています。

- 学校は地域社会と一体であるということを常に念頭において今後の検討を進めてほしい。

新設小学校の施設や工事に関するもの

- 今後、どのような校舎が建っていくのか。

(回答)

平成 29 年度に行う、施設の基本設計の中で検討し、その状況は芸術の森部会やニュース等で随時お知らせいたします。施設の配置決定は平成 29 年度末ころを予定しており、その際は、常盤小学校、石山東小学校で説明会を開催させていただきます。

● 高低差のある3段の土地だが、どの面に合わせて土地を整備するのか。

(回答)

今後の設計での検討となりますが、すべてを1段の平らな土地にすることはできず、段差を活かしたような施設、工夫した設計となる見込みです。

● 平成29年度に行う設計でどんな施設になるのかが見えてくると思う。その経過や状況は、常盤小学校・石山東小学校に随時伝えられるのか。また、両小学校からの意見をきちんと聞きながら進めていくということで間違いはないか。

(回答)

両小学校の校長先生に随時お知らせ・ご相談させていただくほか、両小学校で施設に関する説明会を改めて開催させていただき、地域・保護者の皆様にご理解をいただきながら進めていきたいと考えています。

● スポーツ少年団などが、ときわスポーツコミュニティ広場を使用している。使用できなくなる具体的な時期はいつか。また、活動の代替地を相談できる部署はどこになるのか。

(回答)

平成29年度はおおむね通常どおりで使用いただけます。調査等で一時期使用できなくなる場合がありますが、その際は利用団体等に事前にご相談させていただきたいと考えています。代替地については、常盤小・石山東小の跡活用とも関連してくると思いますが、ご相談については、まずは事務局にご連絡いただければと思います。

小中一貫教育に関するもの

● 小中一貫教育のメリット・デメリットは何か。

(回答)

文部科学省が実施した調査によりますと、成果として「中学進学時の不安感の減少」「上級生が下級生に対して見本となる意識の高まり」、さらには「教職員間の連携強化やその意識の高まり」などがあげられています。一方、課題としては「教職員の負担感や連携のための時間の確保」が大きいとのこと。

● 保護者や地域の方から要望はどのくらいあるのか。また、学校内での検討状況はどうなっているのか。

(回答)

部会には各団体の代表としてPTAや町内会の方、学校長などにご参加いただいております。ご意見を頂戴しております。地域内や学校内での検討の詳細は事務局として把握しておりませんが、概ねご理解をいただいていると、全体として要望をいただいていると考えております。

● 教育委員会の意見書に小中一貫についての要望を記載した経緯を知りたい。

(回答)

意見書は、芸術の森部会からご提出いただいたものであり、教育委員会で作成したものではありません。小中一貫関連の要望は、「新設校と中学校の距離の近さ」「地域に新しい学校ができること」「全国的にも小中一貫教育の評価が良好なこと」等を踏まえ、部会で検討をしたうえでご要望いただいたものです。

● 小中一貫教育では、小中の接続部となる5・6・7年生に制度的な問題があるのではないか。

(回答)

小学校高学年にあたる学年での課題についても現在調査および検討中です。

● 通常の小中学校のほかに、小中一貫教育を導入する学校があると、公教育の序列化につながるのではないか。

(回答)

小中一貫教育を行う場合においても、教育の基準となる学習指導要領は通常の小中学校と同じです。小中一貫教育を導入することによって、通常の小中学校と序列が発生するとは考えておりません。

● 札幌市は人口流動、転校が多い地域だと認識している。一部の学校で小中一貫教育を導入すると、転校時に学校間での違いが出てしまう心配はないのか。

(回答)

通常の小中学校と小中一貫教育を実施している学校間での転校というのは、大きな課題として認識しております。そういったことも含めまして、検討を進めてまいります。

● 他都市の実践例やモデル校の経過を参考にしながら、今後も検討を進めてほしい。

● 結局、小中一貫教育は、経費削減のために考えているのではないか。

(回答)

小中一貫教育を実施することにより、経費を削減しようというものではありません。あくまでも9年間を通じた教育課程で系統的な教育ができるというメリットや、中学校進学の際に戸惑いを覚えてしまう子がいるという現状、こういったことに目を向けて検討を開始したものです。

芸術の森地区につきましても、部会の皆様から小中一貫教育関連のご要望、ご意見をいただいたので、教育委員会としても、できるだけ前向きに検討していきたい、というところです。

<ご意見・ご質問について>

説明会に関するご意見、ご質問は、下記の【お問合せ先】までお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

【お問合せ先】

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

電 話：011-211-3836 F A X：011-211-3837

E-mail：gakkokibo@city.sapporo.jp